

# 平成27年度 医学振興銀杏会総会開く



受賞者一同と岸本理事長

平成27年度の医学振興銀杏会総会は、例年通り5月の最終土曜日に銀杏会館にて開催された。医学部正面玄関前の



## 第242号

公益社団法人  
医学振興  
銀杏会

(編集同人)

川越裕也 荻原俊男  
門田守 米田正太郎  
杉本 央次 武田雅俊  
上田啓正 朝野和典  
森井英一 黒木尚長  
馬場幸子

佐多・楠本両博士の胸像に役員による献花が行われ、総会に先立って開かれた級会・支部交流会では、各地の支部・級会・学内からの参加者が各々の同窓会活動の近況を報告しあつた。

総会は早石雅有副理事長の司会で開始され、書面による議決権行使を含め全代議員310名中86.5%の268名の参加を得て本総会が成立したことが報告された。岸本忠三理事長は、当会が昭和13年に設立されてから70年以上の間、師から弟子へ、先輩から後輩へと松明の灯の如く歴史が受け継がれ、その結果現在約7000人の会員が医学・医療に中心的な役割を果たしており、今後も当会は医学部・関連病院と一体となって医療の発展のために活動を進めると述べた。昨年の総会以降の物故者124名に黙祷を捧げ、勲章受章者・学術賞受賞者への慶祝の意が表され

た。公益社団法人の議事として、三好智満理事より平成26年度の事業・会計報告、阿部源三郎監事より監査報告が行われ、承認された。続いて平成27年度の事業計画・予算案が説明され、次期役員、代議員選出管理委員も承認された。引き続き、楽木宏実理事により地域医療に関する研究助成の採択者3名と岸本基金奨学助成金の採択者14名、学友会奨学金の採択者15名への授与式が行われた。

総会の後、消化器外科学教授の森正樹先生が「癌の難治性と癌幹細胞」と題して、癌の難治性の元凶である癌幹細胞をターゲットにした治療法の開発について講演された。続けて、澤芳樹医学系研究科長、金倉譲附属病院長、三善英知保健学科長、目加田英輔微生物病研究所長、仲野徹生命機能研究科長から、学会の現状が報告された。懇親会は銀杏クラブに場所を移して行われ、学部学生や大学院生、若手会員を交えた歓談が続いた。

## 研究助成の公募

当会では、今年度も公益事業の一環として、下記の研究助成を行います。

### ▶地域医療に関する研究助成

対象 地域医療に貢献している病院・施設で行われている疾病の診断・治療等に関する研究をしている若手研究者(40歳未満)への助成

募集期間 9月1日～11月30日

助成額 1件50万円程度

助成件数 3～4件

### ▶平成27年度国際学術交流助成(後期分)

内容 外国で行われる国際学会等(9月1日～平成28年3月31日の間に行うもの)において成果発表をされる若手研究者への渡航費用助成。詳細は当会ホームページ <http://ichou.or.jp/> をご覧ください。

募集期間 10月1日～11月30日

連絡先 (FAX) 06-6879-3503

(メール) [office@ichou.med.osaka-u.ac.jp](mailto:office@ichou.med.osaka-u.ac.jp)

## 第27回シンポジウム

### 『地域医療の課題とその対策』開催のご案内

開催日 平成27年10月2日(金)午後3時開会

会場 銀杏会館3階 阪急・三和ホール

テーマ 「阪大における先進医療と地域医療への役割」

基調講演 澤 芳樹先生(大阪大学 教授)

講演後、演者・コメンテーター・参加者によるディスカッション

懇親会 銀杏会館2階 レストランミネルバ

(要旨) 新しい先進医療を展開しイノベーションに結びつけるために、大阪大学では、14年前から附属病院に未来医療センターを、3年前からは未来医療開発部として新たな展開を進めており、大きな成果を上げつつある。今後もこれまでの成果を活かし、トランスレーショナルリサーチによる先進医療の推進などを通じて、地域医療の活性化や最終受け入れ病院として地域の病院との連携を図っていくことが、大阪大学附属病院のはたす地域医療における役割と考える。

※参加ご希望の方は、事務局までお問い合わせ下さい。

## 平成26年度秋の叙勲

瑞宝中綬章 森脇 要先生 (昭36)  
旭日双光章 青山 喬先生 (昭43)

## 平成27年度春の叙勲

瑞宝中綬章 井上 通敏先生 (昭37)  
瑞宝中綬章 松澤 佑次先生 (昭41)  
瑞宝小綬章 竜田 正晴先生 (昭40)  
旭日双光章 木村 浩三先生 (昭37)  
紫綬褒章 米田 悦啓先生 (昭56)

## 叙 位

従四位 藤田 尚男先生  
(昭28・京府医大)  
(平成26年8月27日ご逝去)

## 平成26年度受賞

慶應医学賞 濱田 博司先生 (昭50・岡山大医)  
救急医療功労者 総務大臣表彰  
横田順一郎先生 (昭51)  
救急医療功労者 大阪市長感謝状  
嶋津 岳士先生 (昭55)  
武田医学賞 高井 義美先生 (昭49・神戸大医)  
日本医師会最高優功賞  
三上 裕司先生 (昭49)

## 平成27年度受賞

日本学術振興会賞 石井 優先生 (平10)  
ガードナー国際賞 坂口 志文先生 (昭51・京大医)  
文部科学大臣表彰科学技術賞  
古川 貴久先生 (昭63)

## 新 役 員

(任期:2015年5月30日より2年以内に終了する事業年度のうち、  
最終のものに関する定時社員総会終結の時まで)

| 役職         | 卒年       | 氏 名   |
|------------|----------|-------|
| 理事長        | 昭39      | 岸本 忠三 |
| 副理事長(総務)   | 昭42      | 早石 雅宥 |
| 副理事長(財務)   | 昭42      | 山西 弘一 |
| 副理事長(事業)   | 昭43      | 荻原 俊男 |
| 理事         | 昭53      | 三木 善次 |
| 業務執行理事(助成) | 昭54      | 吉川 秀樹 |
| 業務執行理事(学術) | 昭56      | 米田 悦啓 |
| 理事         | 昭57      | 馬場 雄造 |
| 業務執行理事(広報) | 長崎大医・昭59 | 朝野 和典 |
| 業務執行理事(助成) | 昭59      | 楽木 宏実 |
| 理事         | 昭60      | 梶本 佳孝 |
| 業務執行理事(情報) | 昭60      | 北川 透  |
| 理事         | 昭63      | 山本 晴子 |
| 業務執行理事(学術) | 平04      | 森井 英一 |
| 業務執行理事(会計) | 平05      | 渡邊 幹夫 |
| 業務執行理事(庶務) | 平05      | 三好 智満 |
| 業務執行理事(広報) | 平16      | 馬場 幸子 |
| 理事         | 平18      | 西尾 啓  |
| 理事         | 平20      | 伊藤 大介 |
| 監事         | 昭18      | 阿部源三郎 |
| 監事         | 昭41      | 越智 隆弘 |
| 監事         | 昭51      | 杉本 央  |
| 監事         | 昭56      | 山口 時雄 |
| 監事         | 平05      | 藤本 美穂 |
| 顧問         | 昭54      | 金倉 譲  |
| 顧問         | 昭55      | 澤 芳樹  |

## 代議員選挙について

現代議員の任期は来年の定時社員総会終結をもって満了いたします。詳細につきましては、  
代議員選出管理委員会からの公示文書、同封別紙「立候補・候補者ご推薦のお願い」をご覧ください。



公益社団法人 医学振興銀杏会役員による献花

## 公益社団法人 医学振興興杏会

## 正味財産増減計算書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

(単位:円)

| 科 目             | 当年度        | 前年度        | 当年度内訳      |           |           |
|-----------------|------------|------------|------------|-----------|-----------|
|                 |            |            | 公益目的事業     | 共益事業      | 法人会計      |
| I 一般正味財産増減の部    |            |            |            |           |           |
| 1. 経常増減の部       |            |            |            |           |           |
| (1)経常収益         |            |            |            |           |           |
| 基本財産運用益         | 4,950      | 5,841      | 4,950      | 0         | 0         |
| 特定資産運用益         | 45,646     | 81,694     | 44,727     | 919       | 0         |
| 受取会費            | 25,690,000 | 25,455,000 | 15,500,000 | 3,000,000 | 7,190,000 |
| 事業収益            | 527,000    | 957,000    | 477,000    | 50,000    | 0         |
| 受取寄附金           | 129,000    | 100,000    | 100,000    | 29,000    | 0         |
| 受取寄附金振替額        | 14,693,728 | 15,888,550 | 14,693,728 | 0         | 0         |
| 雑収益             | 221,787    | 212,793    | 221,787    | 0         | 0         |
| 他会計からの繰入額       | 0          | 0          | 0          | 0         | 0         |
| 経常収益計           | 41,312,111 | 42,700,878 | 31,042,192 | 3,079,919 | 7,190,000 |
| (2)経常費用         |            |            |            |           |           |
| 支払助成金           | 21,900,000 | 21,700,000 | 21,800,000 | 100,000   | 0         |
| 支払寄附金           | 0          | 0          | 0          | 0         | 0         |
| 地域医療ネットワーク費     | 316,089    | 338,153    | 316,089    | 0         | 0         |
| 通信運搬費           | 1,988,484  | 2,056,411  | 344,334    | 1,078,290 | 565,860   |
| 印刷製本費           | 2,197,833  | 3,704,334  | 1,308,925  | 756,737   | 132,171   |
| コンピューター費        | 24,464     | 28,880     | 24,464     | 0         | 0         |
| 給与手当            | 9,768,269  | 9,444,026  | 5,860,961  | 976,827   | 2,930,481 |
| 退職給付費用          | 0          | 450,000    | 0          | 0         | 0         |
| 福利厚生費           | 2,470,079  | 2,756,757  | 939,265    | 156,544   | 1,374,270 |
| 旅費交通費           | 452,630    | 466,370    | 273,026    | 44,351    | 135,253   |
| 消耗什器備品費         | 13,040     | 5,450      | 6,520      | 0         | 6,520     |
| 消耗品費            | 7,838      | 6,211      | 3,807      | 0         | 4,031     |
| 修繕費             | 0          | 0          | 0          | 0         | 0         |
| 光熱水料費           | 161,091    | 147,999    | 80,546     | 0         | 80,545    |
| 支払手数料           | 612,293    | 558,270    | 181,097    | 3,180     | 428,016   |
| 減価償却費           | 136,755    | 151,973    | 136,755    | 0         | 0         |
| 会議費             | 918,646    | 910,788    | 0          | 0         | 918,646   |
| 新聞図書費           | 14,670     | 15,900     | 0          | 0         | 14,670    |
| 研修費             | 0          | 15,000     | 0          | 0         | 0         |
| 雑費              | 24,840     | 24,150     | 0          | 0         | 24,840    |
| 経常費用計           | 41,007,021 | 42,780,672 | 31,275,789 | 3,115,929 | 6,615,303 |
| 評価損益等調整前当期経常増減額 | 305,090    | △ 79,794   | △ 233,597  | △ 36,010  | 574,697   |
| 基本財産評価損益等       | 0          | 0          | 0          | 0         | 0         |
| 特定資産評価損益等       | 0          | 0          | 0          | 0         | 0         |
| 投資有価証券評価損益等     | 0          | 0          | 0          | 0         | 0         |
| 評価損益等計          | 0          | 0          | 0          | 0         | 0         |
| 当期経常増減額         | 305,090    | △ 79,794   | △ 233,597  | △ 36,010  | 574,697   |
| 2. 経常外増減の部      |            |            |            |           |           |
| (1)経常外収益        |            |            |            |           |           |
| 固定資産売却益         | 0          | 0          | 0          | 0         | 0         |
| 経常外収益計          | 0          | 0          | 0          | 0         | 0         |
| (2)経常外費用        |            |            |            |           |           |
| 固定資産売却損         | 1          | 4          | 1          | 0         | 0         |
| 経常外費用計          | 1          | 4          | 1          | 0         | 0         |
| 当期経常外増減額        | △ 1        | △ 4        | △ 1        | 0         | 0         |
| 当期一般正味財産増減額     | 305,089    | △ 79,798   | △ 233,598  | △ 36,010  | 574,697   |
| 一般正味財産期首残高      | 86,784,907 | 86,864,705 |            |           |           |
| 一般正味財産期末残高      | 87,089,996 | 86,784,907 |            |           |           |
| II 指定正味財産増減の部   |            |            |            |           |           |
| 受取寄附金           | 20,001,250 | 20,500,000 | 20,001,250 | 0         | 0         |
| 一般正味財産への振替額     | 14,693,728 | 15,888,550 | 14,693,728 | 0         | 0         |
| 当期指定正味財産増減額     | 5,307,522  | 4,611,450  | 5,307,522  | 0         | 0         |
| 指定正味財産期首残高      | 6,794,210  | 2,182,760  | 6,794,210  | 0         | 0         |
| 指定正味財産期末残高      | 12,101,732 | 6,794,210  | 12,101,732 | 0         | 0         |
| III 正味財産期末残高    | 99,191,728 | 93,579,117 |            |           |           |

ホームページでも公開しております。ホームページアドレス→ <http://www.ichou.or.jp/joho.html>

## 助成事業採択者一覧 (敬称略。平成27年5月30日総会にて授与式を執り行いました)

## 1. 平成26年度 地域医療に関する研究助成、3件、各50万円

木下 允: 筋萎縮性側索硬化症患者における microtrauma 関連分子の解析

数藤孝雄: 泉州地区血液内科診療科ネットワーク構築による地域完結型医療の提供

三吉範克: 次世代シーケンサーによる大腸癌組織の網羅的解析と血液中の遊離 DNA による新規バイオマーカー探索と治療効果予測

## 2. 平成27年度 学友会奨学金 15件、各20万円

学部学生: 柴田明有美、柴田真人、田中和典、橋本泰成、服部真也

大学院生: 伊藤篤子、柏原宏香、木村百合子、小林正樹、島井良重、瀬尾政貴、宋 智勲、谷川直紀、山本聡美、若林真美

## 3. 平成27年度 岸本基金奨学助成金採択者 14件、1年次:60万円、2年次~6年次:120万円

(1年次) 秋山久徳、大井 遼、紅林亮汰、竹内太郎、(2年次) 辻井敦子、(3年次) 甲斐千舟、鬼追芳行、松田佳祐、(4年次) 小林政雄、

長野広通、(5年次) 李 福章、島上 洋、松本紗矢香、(6年次) 山本宗盛

## 4. 平成26年度 国際学術交流助成 12件、各15~20万円

青野悟志 (消化内・米)、赤澤仁司 (耳鼻咽・蘭)、有田 陽 (臨検・独)、井上 彬 (消化外・米)、加藤大悟 (泌尿器・米)、川西洋平 (整形外・仏)、河村拓史 (心血外・米)、多田 智 (微研分子免疫・白)、戸田有朱香 (産婦人・米)、西本俊介 (器制御・伊)、山本毅士 (老腎内・米)、吉田栄宏 (泌尿器・米)

## 寄 附 御 礼

当会の公益目的事業へご寄附をいただき、誠に有難うございました。

平成 27 年 4 月 20 日

大阪大学同窓会連合会より、46,000 円をご寄附頂きました。

平成 27 年 5 月 11 日

畠中基治先生より、10,000 円をご寄附頂きました。

平成 27 年 5 月 15 日

岸本基金奨学助成金事業のため、岸本忠三先生（昭 39）より、2,000 万円をご寄附頂きました。

平成 27 年 5 月 21 日

野木道雄先生より、金一封をご寄附頂きました。

※公益社団法人への移行に伴い、平成 23 年 4 月 1 日より当会へのご寄附は、個人・法人とも税金控除の対象となります。詳細に関しては、当会事務局までお問い合わせください。

## 医学部長通信

## 第3回 澤 芳樹（昭 55）

このたび伝統ある大阪大学大学院医学系研究科長に就任させていただきました、心臓血管外科教室の澤 芳樹でございます。本学は、世界的な基礎医学研究や高度先進医療 / 未来医療橋渡し研究等の推進により大きな発展を遂げ、国内において確たる地位を築いております。しかしながら、日本の臨床医学のみならず基礎医学を取り巻く環境は大変厳しい状況にあります。大阪大学医学部の輝く未来のためには、基礎医学研究のさらなる発展とその成果を人類に役立てる基礎から臨床への橋渡し研究による未来志向の研究基盤、卓越した附属病院のさらなる発展、そしてそれを受け継ぎ世界で活躍する次世代人材育成体制を構築することが重要と考えます。そこで、私どもの執行部は“Challenging, Sustainable そして Tough な大阪大学医学部”をめざして、本学の発展に貢献していきたいと思っております。

まず研究面では、新研究領域として、発生再生医療領域に新しく教授をお迎えすることが進んでおりますが、がん基礎研究の分野でもこれから選考を進めていこうと考えております。また、ゲノム解析 / バイオインフォマティクスの分野でも、学内で複数の組織が先駆的な活動されておられますが、他大学に先んじてこの分野の研究を統括する人材と場が必要ということで、体制整備を進めております。また、従来から成果が見られているテニュアトラック独立准教授につきましても増員し、未来医学プロジェクトとして、将来未来医療につながるシーズの開発が期待できる若手研究者を育成していきたいと思っております。がん、免疫再生、神経、医工連携の各領域でも横断的な研究チームを作り、AMED 等に対応する形で、競争資金獲得を積極的に進めていきたいと思っております。

教育面では、基礎医学における価値創造力やリーダーシップ、開拓精神の高い多様なグローバル人材を輩出する学部教育や大学院教育へと発展させたいと考えております。一方、医学部修士につきましても、従来の生命科学や死因究明コースに加えて、新しく医学統計、バイオインフォマティクス、医学倫理、臨床工学、医療情報や医工連携 (Stanford Biodesign)、創薬 (Pharmatrain) などのコースを加えて、次世代医療人材育成を進めていきたいと思っております。

将来計画としましては、大阪市内の拠点作りが重要と思っております。うめきた二期のプロジェクトも重要ですが、我々の聖地である中之島にも再び拠点を持つことができれば、吹田キャンパスでは達成できない大阪市内ならではのヘルスケアの産学拠点作りや前述の次世代人材育成が可能となり、大阪大学医学部のこれからの 10 年 20 年の発展が期待できるものと確信しております。学友会の先生方の一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。



# 糖再吸収を標的とした 糖尿病治療薬

## トピックス

糖尿病において高血糖状態形成に関わる要因として、従来から知られていたインスリン分泌能の低下、糖産生の亢進、骨格筋など臓器での糖取り込みの減少以外に、近年様々な因子が明らかにになり、それぞれに対する新たな創薬が試みられている。腎尿細管からの糖再吸収もそのひとつであり、糖再吸収を担う輸送体 SGLT2 を標的とした糖尿病治療薬が開発され、昨年からは本年にかけて6つの薬剤が臨床で使用されるようになった(図1)。

この SGLT2 阻害薬は、SGLT2 を選択的に阻害することで、尿細管からの糖再吸収を抑えて尿中に糖を捨て、血糖値を下げて糖毒性を解除するという新しいコンセプトで開発されたものである。糖毒性を抑えることで、インスリン分泌能の回復、インスリン抵抗性改善等、糖尿病の病

態を改善するとともに、種々の合併症を軽減する作用が期待されている。体重減少効果をもつことも特徴のひとつであり、さらに降圧効果、脂質代謝の改善、血尿酸値低下作用も有する。一方で、浸透圧利尿による脱水、尿路・性器感染症のリスクの上昇等、使用に当たり注意すべき副作用もあり、適する患者に適正に使用することが求められている。

SGLT2 阻害薬は、尿細管再吸収を担う輸送体を標的とした薬物としては、利尿薬、尿酸排泄薬に次ぐ3番目のものであるが、前二者が輸送体の分子同定以前に治療薬がすでに存在していたのに対し、SGLT2 阻害薬は、SGLT2 の

分子同定に続き、それを用いた化合物の最適化が行われて創薬が完了した点で、分子標的創薬の成功例の一つと言える。また、SGLT2 阻害薬の開発により、腎尿細管の特定の輸送体を阻害することで、病態に伴って異常となった恒常性を回復させる治療薬カテゴリーが再認識された。今後

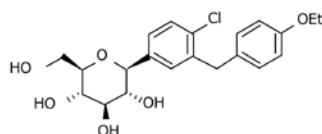
同様な着想によるさらなる創薬を促すものと期待される。SGLT2 は、臓器特異性が高く、これを完全に阻害しても生体の代謝応答や他の輸送体による代償のため比較的低血糖を起こしにくい。さらに開発シーズとして天然の化合物が存在し、分子同定された

SGLT2 や類縁分子の情報を基に創薬の方向性を定めやすかった等、創薬標的として有利な点を多々有しており、シーズの構造展開により比較的短期間でゴールにたどり着いた。化合物ライブラリーの大規模スクリーニングに依拠する近年の低分子創薬とはま

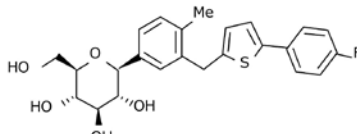
たひと味違った、自然の作ったシーズの特性を活かしながらそれを改変していった研究者の息吹が感じられるものである。

生体システム薬理学

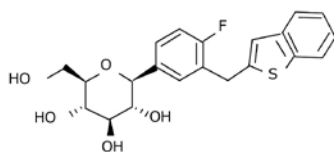
金井好克  
(昭59・群馬大医)



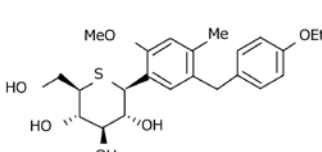
Dapagliflozin



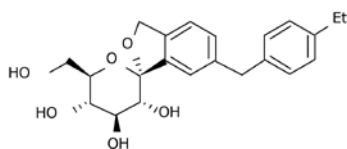
Canagliflozin



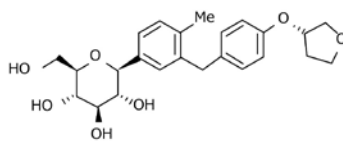
Ipragliflozin



Luseogliflozin



Tofogliflozin



Empagliflozin

図1 臨床開発された SGLT2 阻害薬

提

言

日本専門医機構が立ち上がり、わが国の専門医制度の仕組みが大きく変わろうとしている。そして専門医に総合診療専門医が加わることとなった。従来、総合医、家庭医等様々の呼び方があったが、総合診療専門医と専門医としての資格となる。

平成25年8月、専門医の在



…その143

年度の節目に起きる「異動」

に関わるたびに、改めて感慨深く考えます。私は当時の厚生省が国のアレルギー・リウマチ臨床研究センターを新設する国立相模原病院への異動を求められ困惑しましたが、流れに任せる肚を決めました。大阪で築いてきた臨床の場、研究グループなどとの関係が断たれることは、自分の

り方に関する検討会の最終報告書が公表され、新たな第三者機関が専門医の認定を行う組織となる。基本領域の専門医資格の取得後、細分化した専門医資格を取得することになり、そして基本領域に総合診療専門医が新たに加えられた。これを受けて、日本専門医機構が立ち上がり、その中に、総合診療専門医に関する委員会が設置され、26年4月、総合診療専門医に関する委員会とめが公表された。

領域別専門医は「深さ」が

ライフワークの終わりを意味したものだ残念でした。平成12年12月に、私は阪大医学部長在任中でしたが国立相模原病院臨床研究センター長を併任し、その後、平成15

特徴であるのに対して、総合診療専門医は「扱う問題の広さと多様性」が特徴である。従来から総合医あるいは一般医は専門医と比べて何とな

## 専門医制度改革と総合診療専門医

く下に見られがちであるように見えるが、専門医となれば見方が変わるであろう。総合診療専門医は在宅医療だけでなく、病院での一般診療、救急医療の場でも貴重な存在と

なる。多くの病院で救急医療、診療科の隙間の疾患の取り扱いには苦労している。かつては、外科の医師も骨折の救急診療を行っていた。また、現

在でも、内科で開業しようとしている勤務医は自分の専門領域以外の診療も行っている。しかし、多くの比較的若い勤務医は専門領域の診療のみになりがちである。筆者も

病院勤務の時、上記の事には非常に苦労した経験がある。但し、病院幹部は是非とも病院の中で総合診療専門医を便利屋として扱うのは避けなければならぬ。また、僻地医療、離島等も活躍の場となろうが、過疎地では、専門医資格の維持、研修等様々な問題があり、対策が必要である。今後の高齢化、超高齢化、過疎化が進む中で、また、専門分化し過ぎの面からも是非ともこの総合診療専門医が根付くことを切望する。

米田正太郎 (昭45)

## 「異動」に思うこと

年3月から同院の病院長専任になりました。病院内でも、医師会や防災関連の相模原市の集まりでも知らない人ばかりでした。名刺をお渡しすると「あつ、先日の会で頂きましたけど」と言われる場合

勤務後に居酒屋で飲む酒は格別でした。枡の中に立てたグラスに日本酒を「モットツトット」と溢れるまで入れての美味い酒でした。病院の職員の方々との接点も増し、気持ちの救いを得た有難い場所

でした。居合わせた組合幹部の方から病院の経営指数改善の案を貰ったこともありまして。夏になって、広い病院の敷地に、職員の子供さんや家族、近隣の人々、患者さんも自由参加で夜店をだして、中央に屋台を組んでライブを楽しむ場面には驚きました。相模原にもすっかり馴染んで楽しんでいたとは言うものの、目の前の事だけを何とか乗り越えるのに精いっぱい毎日でした。「石の上にも三年。」というのは明言だなと思いが月日が過ぎ、定年退職が間近かになると全てが美しく

く見えてきました。出勤途上で、自転車に乗ってすれ違った労組のオルグの人達から「おはようございます。辞められる前にもう一度団体交渉をやりませんか。」「いいねえ、やろうか。」「これは事務部長から「とんでもない。」と断られました。

あれから8年、先日もある時のメンバーと、あの居酒屋でタイムスリップしたひと時を楽しみ異動を顧みました。大阪で長年築いた多くを異動によって切り離されスリムになった分だけ、異動先で新たに身につけた部分が多かった

大阪警察病院 院長

越智隆弘 (昭41)

# 診療科紹介

## 乳腺・内分泌外科

### 教室の沿革

当教室のルーツは大阪大学附属微生物病研究所外科にあります。平成5年に大阪大学医学部附属病院の吹田移転に伴う合併により腫瘍外科として再出発することになりました。平成10年4月に私が教授として赴任した当時の腫瘍外科は、消化器外科が主体であり乳腺外科はまだマイナーな領域でした。しかし私は、乳腺外科が将来、日本で必ず発展する領域、いや発展させねばならない領域であるとの信念を強く抱き、平成12年には、外科系診療科の臓器別再編の中で、当教室を乳腺・内分泌外科を専門とする教室と致しました。国立大学の外科教室のなかで、乳腺・内分泌外科に特化した教室は当教室が最初であり、今もバイオニアとしての自負と責任の重大

さを強く感じております。当教室では、乳腺・甲状腺疾患の診療、並びに、乳腺専門医の教育・育成に日夜努力しております。また、乳がんに関するさまざまな基礎・臨床研究も幅広く行っています。特に「遺伝子診断の乳がん診療への応用」を教室のメインテーマとして、translational researchに積極的に取り組んでいます。診療、教育、研究のバランスの取れた教室運営を常に心がけ、優れた臨床技術のみならず高い研究能力をも兼ね備えた Physician-Scientistを育成することを当教室のモットーとしています。

### 診療実績

現在の当科のスタッフは、教授1名、准教授1名、講師1名、助教4名、特任助教1名、医員4名と大学院生15名

### 研究の紹介

以下に当教室で現在実施中の主な研究を簡単に紹介します。

①乳がんの遺伝子発現解析の臨床診断への応用(担当:直居助教)

乳がんの再発リスクを予測する方法として、95個の遺伝子発現情報(DNAマイクロアレイ)を用いた Curebest 95CG<sup>TM</sup>を開発し、2013年末に実用化した(シスメックス社との共同開発)。また、化学療法感受性予測法(IRS23・MCP155)及び、腋窩リンパ節転移予測法GZMも現在実用化に向けて研究を進めています。

②血中循環腫瘍ゲノム(CTG)の検出と乳がん診断マーカーへの応用(担当:加々良助教)

乳がんが高頻度に認められる遺伝子変異やメチル化に注目し、これらのDNA異常をCTGで検出する方法の開発を行っています。変異CTGについては qPCR や次世代シーケンサーを導入し、メチル化CTGについては独自に改良した高感度ZMG法を用いて検出を行い、予後予測や早期診断において既存の血中マーカーに対する優位性を見出しています。

③遺伝性乳がん・卵巣がんの早期発見・予防プログラム(担当:下村助教)

BRCA1 遺伝子または BRCA2 遺伝子に変異を有する女性は、乳がんや卵巣がんの生涯発症リスクが一般女性の10倍以上に上昇します。当科では、遺伝子診療部と産婦人科の協力を得て「遺伝性乳がん・卵巣がんの早期発見・予防プログラム」を作成し、BRCA1/BRCA2 遺伝子診断の有用性を検証する臨床研究を行っています。

④HER2 陽性乳がんにおける新たな標的の探索(担当:下田助教)

HER2 陽性乳がんの治療は、トラスツズマブの登場により飛躍的に向上しましたが、今なお約2割の患者において再発が見られます。そこで、我々はトラスツズマブ耐性メカニズムを明らかにすべく研究を行ってきました。その甲斐あって今までに標的となりうる新たな経路や分子を複数同定するこ

とができました。今後これらの研究成果が臨床に還元できるよう努力して参ります。

次は小児外科の奥山宏臣先生にお願い致します。

野口眞三郎(昭55)

